

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡市博多区西月隈3丁目3-54		
自己評価作成日	平成22年5月20日	評価結果確定日	平成22年7月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の明るい笑顔が絶えない日々であるよう、心のかもったサービスを提供します。
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年6月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

8年前の開設当初から、単身生活の利用者受入れや、博多区で最初に生活保護受給者の受入れを行う等、行政と連携しての実績がある事業所である。ホームでは、元気な利用者が多い事に驚かされる。秘訣の一つは散歩だという。「夏の外出は無理」という職員の「感覚」での判断を避け、外出できる工夫をする。シーズンオフを設けない取組みは、確実に身体機能の維持に反映されている。また、代表のポリシーとして、「人々を楽しませる」ことにも熱心に取り組んでいる。本年度の秋祭りは、幅広い世代を喜ばせたいと昔懐かしい「チンドン屋」を呼ぶ計画をしている。思いを探る洞察力、かなえる為の発想力を武器に、今後とも利用者本位の個別支援が大いに期待できる事業所である。
--

自己評価および外部評価票

ユニット名: 1階

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「アメニティ(喜び)、ケア(支援)、サービス(奉仕)」の頭文字を社名としている。地域密着型が導入されてからはこれらの理念に加え地域との交流を方針としてあげている。また毎年事業方針を作成し、理念同様に実践に努めている。	理念から社名を命名し、日々のケアを通じて実践に励んでいる。平成18年度の地域密着型導入後は、地域とのかかわりについても追加し、地域行事等を通じて交流の機会を確保している。事業方針は毎年作成し、スロガンとして実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃や夏祭り、公民館でのサークル活動への参加など地域の人々との交流を図る取り組みがある。また3年前より秋祭りを開催している。前年より多くの地域住民に参加してもらう為趣向をこらしたポスターの掲示を行うなど積極的に地域交流の機会を確保する取り組みがある。	町内行事や清掃活動、公民館活動に参加し交流の機会を確保している。また、ホーム行事として実施している秋祭りは、幼児から高齢者まで、幅広い世代が楽しめるイベントとして趣向を凝らしており、毎年参加者実積を伸ばしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の定例会、地域推進会議でグループホームのPRを含め介護で悩んでいる方、介護保険などの説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎に開催されている運営推進会議にはホームの概要や外部評価の結果報告、ホームの活動内容や行事の報告、地域サロンや行事の参加の提案、参加者からの質疑応答など質の向上へ向けての取り組みがある。	家族、町内会、民生委員、校区社協、いきいきセンター職員等の参加のもと2ヵ月ごとに開催している。会議では、活動報告や利用者の状況報告、地域行事の情報提供や交流活動への提案、防災対策等について協議や質疑応答・提案等がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括センターの参加を得ている。その際質疑応答などを行うなど行政との関係作りに取り組んでいる。また、生活保護課など行政の担当者とは常に密に連絡を取り担当窓口へ赴いたり、訪問があったりと相互に行き来する機会を設けるなどの取り組みがある。	運営推進会議にはいきいきセンターからの参加がある。また、博多区で最初に生活保護受給者を受け入れた経緯もあり、行政担当者とは、キーパーソン不在の利用者の入所、支援、退所後の転院先の相談等を行いながら、連携して取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないためのケア方法を適宜職員で話し合っている。	勉強会やカンファレンス時に、日常的な支援を通じての言葉かけや行動制限等が拘束となっていないか等、啓発する機会を確保している。玄関は日中開錠しており、利用者は自由に入出入りしている。調査当日も玄関先のウッドチェアで日光浴や喫煙を楽しんでおられた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてケアする人の心理状況やストレスなどミーティングで話し合っている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、必要性を関係者と話し合っている。以前利用された入居者もおられる。	勉強会や外部研修受講報告会を実施し、職員全体で理解を深めている。また、運営推進会議や家族会時等にも、いきいきセンター職員が成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要や利用手順について説明を行う等、制度の周知に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時必ず重要事項や金銭管理を十分に説明を行い了解を得ている。入居後も再度説明している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口など苦情対応体制について説明を行っている。意見箱を設置しているが実際は面会時に直接話されることがほとんどあり聞き逃さないように留意している。意見、苦情に対しては代表者自ら真摯に対応し、内容に応じて検討、回答するなどの取り組みがある。	運営推進会議時や家族会、家族との個別面談時などを利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、可能な限り代表者が速やかに回答し、内容に応じて、職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に提案を聞く機会を設けている。	毎月の職員会議や申し送り、カンファレンス等の中で、意見を出す機会を確保し、協議の上、運営に反映させている。この過程を経て、秋祭りの開催や行政との連携等についての反映事例が見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮している。	職員採用においては、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず、人間性や理念への共感等を重視している。レクリエーションや調理など、職員の特技等を活かして、利用者との生活を楽しめる場面が多く持てるようにより工夫している。また、資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整等の配慮をしている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部講師による勉強会や講習会等で取り組んでいる。	高齢者虐待防止や成年後見制度、高齢者の権利擁護について、外部研修の受講および報告会等を行い、人権について学習する機会を設け、利用者への対応や尊厳など日々の業務に反映できるように努めている。	現在取り組んでおられる研修テーマを更に掘り下げて人権意識をより高めると同時に、高齢者に留まらない様々な視点や対象を取り入れた人権学習が展開されることを期待します。
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等を積極的に受けられる様に取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、ケアマネット等で交流をはかっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族以外、本人からしっかり情報としてよく聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前の見学時より要望など、傾聴しながら対応している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含め必要性や精神状態を見極める努力をしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話などを中心に教えたり、教えあつたりを日常にしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も家族の一員となって、色々な話をし、お互いに信頼関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り家族の協力の上支援している。	可能な限り利用者の趣味や信仰、習慣等が継続できるように、家族や関係者と協力しながら支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人たちで関係を築いているし、レクレーションを通して仲間意識が出来るよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は退所になった入居者にお見舞いに行ったりし、関係を大切にしていたがこの一年は、退所、入院はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをなるべく取り入れているが困難なことは家族、本人と相談し、希望要望に向けて支援している。	契約時の聞き取りにより、生活歴等を含むアセスメントの概要をまとめ、記録や会議等での周知や情報交換を行い、職員全員で利用者の意向を把握している。入居後も、日常の会話や様々な場面を通じて、本人の思いを推し量れるように取り組んでいる。	貴事業所の長所である、利用者の意向に沿った支援事例が多数見られました。把握された多彩な情報が、個人毎に集約・ファイリング化されれば、個別支援はより一層充実されると思われます。今後の取組みを期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後も家族を含め、各サービス提供者と情報交換を依頼し把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録し現状を職員で話し合い把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を第一に考え、各関係者に相談の上、計画を作成している。	毎月のカンファレンスにて、利用者の意向、心身状況、支援手順の周知や確認を行い、記録している。3ヶ月毎にモニタリング、カンファレンスを行い計画の見直しを行っている。状態が変化した場合も、同様の過程を経て、現状に即した介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の元に、日々の記録により職員同士でケアの実践の効果を検討し見直している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、入居者からの要望に柔軟に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や会議に参加して頂き、協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で24時間対応して頂ける体制をとり支援している。	契約時に医療・受診等について説明し、利用者・家族が入居後の主治医を選択している。現在は、24時間往診可能な医療機関との連携を中心に、歯科医の定期検診、総合病院の受診や入院時の情報提供等、全般的に利用者への受診支援を実施している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡が可能なので、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力機関を設置し連携している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度も御家族や職員、係りつけ医と話し合い全員で方針を共有している。	重度化や看取りについては、契約時に予め対応できる方針を説明し、利用者の身体状況に応じて主治医や関係者で協議し、情報や支援方針を共有する支援体制がある。キーパーソン不在の利用者の意向について職員全体で話し合い、看取りに取り組んだ事例も見られた。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習などに参加している。まだ講習を受けていない職員もいるので訪問診療のドクターや看護師に指示を仰いでいる。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や、避難訓練を実行し、地域の方の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策については以前より、運営推進会議でも協議され、地域への協力依頼と同時に、年に数回、消防設備の点検や避難訓練が行われている。今年度は、設備強化や災害時の課題協議等、対策にむけて活発な取組みが見られた。	スプリンクラーの設置や防災対策について活発な協議がなされてきました。今後とも継続的な取組みと同時に、地域全体での協力体制の構築にむけて取り組まれていくことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の生活歴、家族の情報や性格、プライバシーを大切に親しみのある声掛けを行っている。	言葉かけやプライバシーに配慮しながら、より良いコミュニケーションが取れるように、内部勉強会や啓発する機会を確保し、対応している。個人情報に関する記録等は、契約時に利用者・家族にも説明し、了承を得た上で事務所にて適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「出来る力」を充分に発揮できるように自己決定を支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに添いながら支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはお手伝いできる場所があれば支援し、理美容は、希望されればお店にいけるようにしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族からの情報をもとに利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	食材の調達、準備、調理、賞味、片付け等を重要な生活活動ととらえ、利用者と職員が協力して行っている。調査当日は、差し入れの枇杷の皮むきを利用者が行い、職員と一緒に、和やかに味わう光景が見られた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の好みに応じて個々に対応している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、起床時や就寝時の洗浄など支援をしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとのトイレ誘導や声掛けなどで支援している。	排泄パターンを把握しながら、支援手順を作成し、可能な限り自立に向けて個別支援している。歩行不可能と診断された利用者が、トイレでの排泄希望をきっかけに、立位、移乗、手引き歩行に取り組み、自力で歩けるようになった事例も見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品や水分補給運動などで取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調などを見極め気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	毎日入浴できるように準備し、本人の希望にそって対応している。声かけ、シャワー、清拭等も含めて定期的な清潔保持の機会を確保している。また、浴槽がまたげることをホームでの生活支援が可能な身体状況の目安とし、機能維持に向けて支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて空調や温度管理を行い就寝時は熟睡できるよう照明や音に気を配り支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターや看護師から説明を受け薬局より処方箋で確認し、全員理解している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや学習教室、3B体操、活け花教室、散歩などの支援をしている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、散歩などの支援をしている。	花見や行楽等、全体外出の他に、散歩や買い物等、利用者の希望に沿って外出している。屋外に出ることを希望されれば、悪天候でない限り毎日行っている。寒暑の著しい日でも、職員の「感覚」で判断することなく、利用者の意向に沿って工夫しながら支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のちからに応じてお金を使ったり所持できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の力に応じてお金を使ったり所持できる様に支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により自由に出来るよう支援している。	程良く採光されており、全体的に明るく、優しい感じの共用スペースになっている。季節感あふれる装飾や落ち着いた色調で、居心地良く過ごせるように工夫している。中庭では無邪気な飼い犬の様子や、季節の草花を楽しむことができる、心なごむ空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに気のあった入居者同士で思い思いに過ごして頂く居場所の工夫をしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室には寝具、仏具、写真、絵画テレビなど思い出の物やなじみの物が持ち込まれている。寝具についてもベットや、布団、畳を敷くなど利用者の生活習慣や身体状況に応じて安全で、使い易いように工夫している。	居室では、畳かフローリング、布団かベットが選択でき、利用者の意向や身体状況に応じて自由に使えるようにしている。筆筒やテレビ、仏壇等、利用者の馴染みの物を配置し、その人らしく、ゆっくりと落ち着いて過せるように工夫されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、一人一人の出来ることを活かし自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			